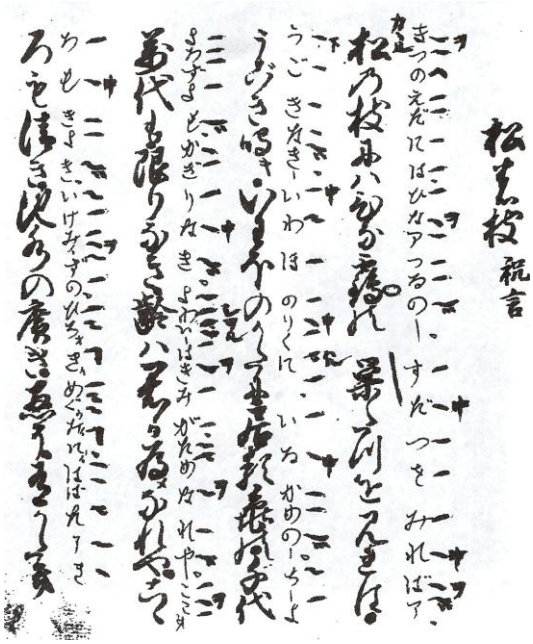
幸若かわら版

幸若舞の里づくり会
事務局　橋本守行
電話090-7746-8689

第　５９号
令和８年　３月　１日

打波家謡曲披露　新年会開催



恒例の新年会が一月一八日、会員一七名の参加を得て、朝寿殿で開催されました。

当日は、予定していた橋谷正紀氏の話題提供が中止となり、打波家に伝わる祝宴時の謡曲が、加賀宝生流の渡辺晃三郎氏によるＣＤ録音が披露されました。

演目は「松の枝」「時津風」など四曲で、いずれも祝言として謡われるものだという説明が、打波会員からありました。これらの謡曲は、いわゆる幸若越前本に含まれるものではなくて、打波家代々独自のものであるという。台本には、練習でつけられたごま点などが見える。

令和８年度総会開催予告

本年度の総会を下記により開催します。なお、今回は総会終了後、打波家に伝えられた幸若音曲台本のうち、「那須与一」などについて、加賀宝生流地謡の渡辺晃三郎氏に口誦をお願いしております。

開催日時　　令和８年５月１０日（日）午前１０時～
会　　場　　越前町生涯学習センター

幕府の式楽となった幸若舞の雅の世界がかって西田中地区にあったことに思いをいたしましょう！

朝日小ふるさと学習発表会
幸若舞研究を発表
旧常磐小で〝児童万博〟

さる一月三〇日、令和七年度のふるさと学習発表会が一昨年廃校となった旧常磐小学校で「児童万博」と銘打って、開催されまっした。雪が降るなか、高田町長をはじめとして、多くの父兄が駆け付けました。発表のテーマはホッケー、あさひまつりなど８項目で、幸若舞研究も取り上げられました

幸若舞研究の八人の発表では、その発祥の経緯や戦国武将との関係、町内の関連史跡などをプロジェクターを使って説明しました。

その後、当時の衣裳に着替えた小学生と高校生助っ人により、現代版幸若舞「北の庄」や「敦盛」などが披露されました。

発表後には、高田町長から賛辞とともに、幸若舞と越前町を愛して欲しいとのエールが贈られました

幸若舞グループ団員募集

現代版幸若舞グループでは、小中高校生の団員を募集しています。お子さん、お孫さんの情操教育も兼ねてどうでしょうか。問い合わせ連絡は松田会員まで。〇九〇　六二七五　二七七〇

福井新聞
令和８年２月４日記事

越前町の魅力 住民に発表

旧常磐小児童ら 舞や祭り学習成果披露

越前町の小学校再編で旧常磐小の児童が本年度から通っている朝日小は1月30日、ふるさと学習の成果を発表する「朝日・常磐万博」を旧常磐小校舎で開いた。地元に伝わる伝統舞踊「幸若舞」や名物を調べた5年生64人が、万博になぞらえて設けた「パビリオン」で地域住民に地元の魅力を伝えた。

２０２４年に民間組織「人口戦略会議」が公表した試算では、将来的に消滅の可能性がある自治体に同町が含まれていた。このことを知った5年生は「町が存続し続けるためにできることをしたい」と8グループに分かれて学習に取り組んできた。

幸若舞は室町時代に朝日地区で発祥したとされ、織田信長ら戦国武将が愛好した。発表では、児童が同町生まれの桃井直詮が創始者であることなどを説明し、宗生流剣詩舞道会の松田宗釉さんから習った舞を披露し、来場者から大きな拍手が送られた。

三田村和真さんは「緊張したけど、うまく舞うことができた。これからも幸若舞を多くの人に広めていきたい」と話した。

あさひまつりを取り上げた児童は、祭りにまつわるクイズを出題したり、手作りの山車を披露したりして来場者を楽しませた。（吉川良治）

「万博」と銘打ったふるさと学習の発表会で幸若舞を披露する児童＝１月30日、越前町の旧常磐小

橋本左内と笠原白翁ほか

幸若歴史愛好会開催⑲,⑳

第19回と第20回の歴史愛好会がそれぞれ一月二七日および二月二四日、会員一一名の参加を得て開催されました。

角鹿講師作成の「橋本左内と笠原良策」と「「我が国近代化への先覚者　橋本左内先生」をテキストに講義が進められました。

①左内は、藩医と町医がともに学べるようにしたが、町医の突出をいさめ、身分をふまえたゆるやかな改革を唱えた。

②鈴木主税の治療にあたって左内と良策が江戸・国許で協力したが薬石の効果はなかった。

③安政の大獄での左内への嫌疑に対し仲庵は楽観していた。

④左内は大坂の適塾に入門したが、近くの華岡青洲が開いた医塾・合水堂にも通っており、適塾は開放的であった。

⑤左内は藩校の改革にあたって、まず国学や儒学を修めたものでなければ、洋学を学ばせなかった。

⑥左内は、尊王攘夷・倒幕の志士と称されることがあるが、これは誤りで左内に「倒幕論」はなく、幕藩体制を改革しようとしたものであり、吉田松陰などとは異なった。

＊「左内」「右内」の議論の中で、ひな壇の男雛と女雛の位置関係が話題となった。通常は「左」が格上とされる。向かって右が男雛が京風で、女雛の場合は、関東風とも呼ばれる。町内では両方が見られるとのこと。

第２０回愛好会　ニジハコ

加賀宝生流能楽鑑賞

さる一月五日、福井市のハピリンホール能楽堂で行われた加賀宝生流の出張公演を、会長はじめ七人の会員が鑑賞しました。演目は「箙（えびら）」などでした。

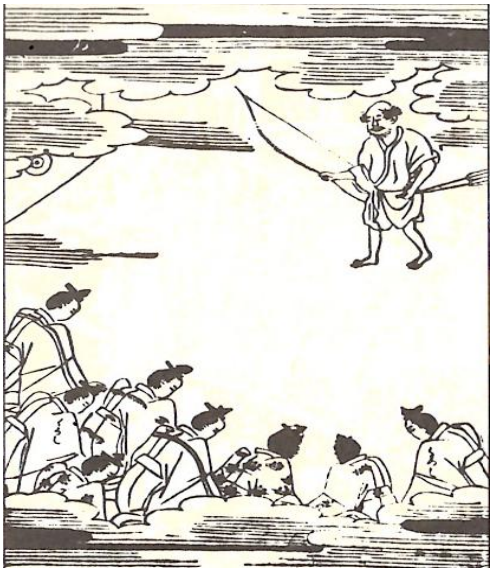
当面の主な予定

歴史愛好会	３月２４日（火）１０時	図書館
８年度顧問会議	４月１０日（金）１０時	ニジハコ
幸若佐々生墓地清掃	４月１２日（日）１０時	現　地
８年度総会	５月１０日（日）１０時	生涯Ｃ

１面参照

「百合若大臣」舞の本より

嵯峨朝の左大臣きんみつが申し子をして得た子息百合若は右大臣になり、蒙古追討を命じられる。三年間の苦戦の末に退治したが、凱旋の途次、玄海が島に休息に立ち寄り、家臣の別府兄弟の裏切りで孤島に置き去りにされる。別府は大臣が戦死したと報告し、筑紫の国司となり、北の方に横恋慕する。大臣の愛鷹緑丸のもたらした大臣生存の証しに北の方は宇佐八幡に大臣の無事帰国を祈願する。島に漂着した釣り人の舟で筑紫に戻った大臣は昔の面影はなく、苔丸と呼ばれて元召使の門脇翁に預けられ別府に召し使われる。正月の弓始めに、百合若の鉄弓を借りて名乗りをあげ、別府を誅罰して復讐を遂げ、門脇の娘の身替りで助かった北の方と再会した。

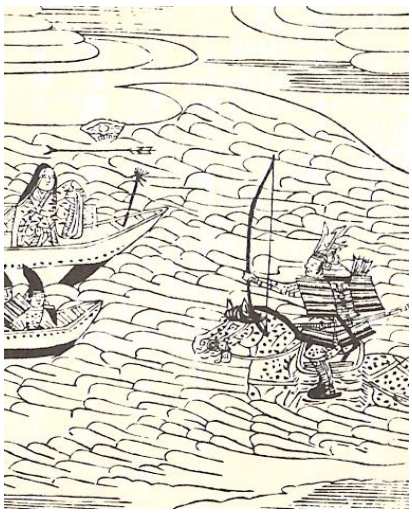


百合若鉄弓を引く

新日本古典文学大系　岩波書店

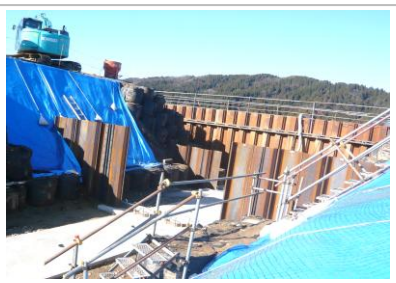
「那須与一（なすのよいち）」舞の本より

那須与一宗高は、源氏の大将義経に呼ばれ、沖の平家方の船から出された扇の的を射当てよという命令を受ける。源平両陣の人々が鳴りを静めて見物する中を、与一は的に向かって駒を進める。波は高く、的は一向に定まらないが、那須野の竜神、正八幡に祈祷し、名乗り上げて矢所を尋ねる。平家方では玉虫を出して、蜘蛛手の辺を射よと指定する。みごとに的を射当てた与一は、大将から御判を得て、所知入した。



与一、扇の的を射る

新日本古典文学大系　岩波書店



天王川改修二箇用水取水口工事

例会は毎偶数月第2金曜日です